

十 雜 件

1 米 国 における排日移民法修正問題

372 昭和7年1月19日 在米出淵大使より
芳沢外務大臣宛

移民の定義に関するディックス・スタイン法案の
提出について

普通公第三九號 (2月15日接受)

昭和七年一月十九日

在 米

特命全權大使 出淵 勝次〔印〕

外務大臣 芳澤 謙吉殿

「ディックス・スタイン」提出移民關係法案報告ノ件

紐育州選出下院議員「ディックス・スタイン」ハ國務省側ノ依
頼ニ基キ一月十五日左記移民關係法案二個ヲ提出シタリ

一、下院決議案第七八〇一號

或種外國人ノ非移民身分ニ關シ一九二四年移民法第三條

中除外例第六項ヲ修正セントスル案

二、下院決議案第七八〇二號

一九二四年移民法第十五條ヲ修正シ第三條第一項列記ノ
外國人ヲ之レニ包含セシメントスルモノニシテ「ケーブ
ル」提出ノ下院法案第七七九三號ト同一内容ナリ

右二法案原文御參考ノ爲添付ス

373 昭和7年6月21日 齋藤外務大臣より
在米出淵大使宛

移民法中の「商人」の解釈に關し米國關係当

局との交渉繼續方訓令

付 記 昭和六年七月十六日付在米出淵大使より幣

原外務大臣宛公信機密公第三七三號

移民の定義に關する國務省との了解について

通三機密第七五號

昭和七年六月二十一日

在 米

外務大臣子爵 齋藤 實

特命全權大使 出淵 勝次殿

商人ノ入米並其ノ妻子呼寄問題ニ關スル件

本件ニ関シ曩ニ客年七月十六日附機密公第三七三號ヲ以テ
御申越ノ次第アリ其ノ後ハ滿洲事變等ノ爲自然米國々務當
局トノ話合ニ就テ御苦心ノ義ト察セラル、處御承知ノ通問
題ノ移民法ニ謂フ所ノ商業ノ解釋ニ付テハ下級裁判所ノ決
定ニ不過トハ云ヘ既ニ熊野御堂事件ノ外鈴木、池本、南地
等ノ事件相次テ我方ニ有利ナル判決ヲ見居ル次第ニモアリ
行政部方面ニ於テ好意的考慮ヲ客マサル以上仮リニ根本問
題ノ正面的ノ解決ヲ米國側ニ於テ回避スル事情アリトスル
モ實際の解決トシテ例ヘバ地方的商業ノ範圍ヲ限定スル等
便宜取扱ノ方法モ講究ノ餘地アリト被考殊ニ我方ニ於テ旅
券ノ發給ニ際シ邦商入米ノ激増阻止方ニハ相当手心ヲ加ヘ
得ヘキ實情ニアルノミナラズ現下ノ不況時代ニ於テハ如何
ニ緩大ナル取扱ヲ爲ストモ本邦商人ノ入米數カ激増ス可シ
トハ思考セラレス尙移民法ノ排日條項ノ改正遷延スレハス
ル程此種ノ實際の取扱ニテモ改善ノ實ヲ示シ置クコト日

米關係ノ大局上望マシキ義ニ有之現ニ帝國議會等ニテモ支

那商人ノ入國數多キト比較シ日本商人ノ入國上ノ故障ニ関
シ論議スル者モアル次第ナルニ付今後可成早目ニ適當ノ機
會ヲ捉ヘ此ノ上共行政部當局ノ態度緩和方ヲ促進セラル、
様致度

尙前顯貴信前段妻子ノ呼寄ニ關シテハ在本邦領事ヘ查證緩
和方特ニ内訓等到達シ居ラサルカ如クナルモ一面加州方面
邦字新聞情報ニ據レバ在羅府雜貨商原、並渡邊及平井等ノ
妻子資格變更問題等ニ就テハ關係當局ニ於テ態度ヲ緩和シ
居ルモノノ如ク從テ貴信御來示ノ話合ハ事實或程度迄實行
セラレツ、アルヤニモ察セラル、處實情果シテ然ルヤ此ノ
際米國側實際ノ取扱振確メオキ度ニ付御同意ナラハ貴官ヨ
リ關係各領事官ノ報告ヲ徴シ詳細申報相成様致度

本信寫送付先 在米各領事

(付 記)

機密公第三七三號

昭和六年七月十六日

(昭和6年8月13日接受)

在 米

特命全權大使 出淵 勝次〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

商人ノ妻子呼寄問題ニ關シ國務省ト交渉ノ件
本件ニ關シ豫テ電報シ置キタル方針ニ基キ本年一月以來水澤書記官ヲシテ國務省係官トノ間ニ非公式交渉ヲ行ハシメタル處其後國務省側ニ於テハ高松宮殿下及ヒ暹羅國王ノ御來訪等ニ忙殺セラレ暫ラク本件交渉ヲ中絶スルノ止ムヲ得サルニ至リタルカ五月以來再ヒ交渉ヲ繼續シ數次懇談ヲ重ネタル結果今回在米商人ノ妻子呼寄問題ノ關スル限リ左ノ通り略ホ話合纏マリタリ

(欄外記入)

千九百二十四年移民法實施以前ニ合法的ニ入國シ現ニ米國內ニ適法ノ住所ヲ有スル日本人商人ニ對シテハ地方的商業ニ從事スル者ト雖モ其妻子呼寄ヲ認ムル見地ヨリ國務省ニ於テ各個ノ事件ニ付好意的考慮ヲ加ヘ法規ノ範圍内ニ於テ便宜取計ヲ爲スコト
嘗テ夫ト共ニ米國ニ居住シタルコトアル妻子ニシテ日本ニ歸還シ再渡米不可能トナリタルモノニ付テハ商人以外ノ者ノ家族ト雖モ考慮ヲ加フルコト(日本歸還後出生ノ未成年子女ヲ含ム)

374 昭和7年7月4日 在米出淵大使より
齋藤外務大臣宛

移民の定義に関する法案議會通過について
普通公第三五七號 (7月29日接受)

昭和七年七月四日

在 米

特命全權大使 出淵 勝次〔印〕
外務大臣子爵 齋藤 實殿

一九二四年移民法第三條第六項修正案送付ノ件
紐育州選出民主黨下院議員「デイツクスタイン」カ二月二日附ヲ以テ下院ニ提出セル外國人ノ非移民身分ニ關スル一九二四年移民法第三條第六項ヲ修正セントスル法案(下院法案第八七六號)ハ六月十八日下院ヲ通過シタルカ上院ニ於テ「ペンシルベニア」州選出共和黨上院議員「リード」ヨリ修正案出テタルモ七月一日附ヲ以テ下院ハ右「リード」修正ニ同意シタルヲ以テ直ニ大統領ノ手許ニ送付セラレタリ

件 雜 十
一九二四年移民法第三條第六項ハ單ニ
現行通商航海條約ノ規定ニ遵據シ專ラ商業ヲ行フ目的ヲ

獨身者ニシテ日本ニ赴キ結婚ノ上妻同伴歸米セント欲スル者ニ關シテモ特ニ考慮ヲ加フヘシ

右ハ前述ノ通り非公式懇談ノ結果到達シタル了解ニ過キス愈々具體的ニ事件ヲ提示シ國務省ノ取計振リヲ見ルニ非サレハ果シテ如何ナル程度迄查證緩和ノ效果ヲ擧ケ得ヘキカ豫測シ得サル次第ニ付此際新聞紙等ニ漏レサル様特ニ御配意相煩ハシ度

將又本件話合ハ當初日米條約上「トレード」ノ解釋問題ニ基キ國務省側ノ考慮ヲ求メタル次第ナルモ先方ニ於テハ條約解釋論乃至廣義ニ於ケル商人ノ入國問題ニ關シテハ何等「コムミット」スルコトヲ回避シ便宜先以テ妻子呼寄問題ニ付何等カノ辦法ヲ講スル趣旨ニテ話合ヲ進メタル譯合ニテ右根本問題ニ關シテハ今後引續キ交渉ヲ爲シ得ル立場ニ在ル次第ナリ右爲念申添ユ

本信寫送付先在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)

(欄外記入)

(年末位迄ニハ今少シ具体化セシムル方針ニテ處理シタシ)

以テ米國ニ入國シ得ル外國人ハ移民ト看做サス

ト規定シテ右外國人トハ單ニ國際貿易ニノミ從事スル者ノミヲ指サヤ又ハ米國內ニ於テ商行爲ヲ行フ者ヲモ含ムヤニ付解釋區々タリシヲ以テ今回ノ修正案ニ依リ左ノ通り明瞭ニ外國人ノ身分ヲ規定セントスルモノナリ

現行通商航海條約ノ規定ニ遵據シ米國ト當人カ國籍ヲ保有スル外國トノ間ニ於テ專ラ商業ヲ行フ目的ヲ以テ米國ニ入國シ得ル外國人及當人ニ同伴シ乃至合同スル妻及二十一歳以下ノ未婚ノ子女ハ移民ト看做サレヌ

右法案添付報告ス

本信寫送付先 在米各領事(含ホノルル)

375 昭和7年7月7日 在サン・フランシスコ若杉(要)総領事
より
内田外務大臣宛(電報)

移民の定義に関する法案の成行きにつき駐米大使へ照会

サン・フランシスコ 7月7日前発
本 省 7月8日前着

第六三號

本官發米宛電報

第一九號

情報ニ依レハ移民法第三條ノ(六)ヲ修正シ同條ノ「ツレード」ヲ米國及本國間ノ國際商業ノミニ限定スルト共ニ其ノ妻子ノ入國許可ヲ明示シ且將來締結セラルル通商條約ニ基ク入國資格ノ制限ニ關スル但書ヲ附シタル下院法案第八七六六號既ニ上下兩院ヲ通過シ目下下院ニ於テ上院ノ修正案ニ付審議中ナル趣ノ處本件ハ日米條約ノ解釋ニ關係アルノミナラス熊野御堂事件其ノ他「ツレード」ヲ國內商業ニモ適用セル數多ノ判例並在米邦人中第三國間ノ貿易ニ從事スルモノアル事實ニ鑑ミ當地居留民間ニ關係鮮カラサル事情アルニ付同法案ノ成行御回電ヲ請フ

大臣へ轉電シ、「ホノルル」ヲ含ム在北米各領事へ暗送セリ

376 昭和7年7月8日

在米國出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

移民の定義に関する法案大統領裁可について

移民法との關係につき駐米大使に確認について

付記 昭和六年二月十日發在米國出淵大使より幣原

外務大臣宛電報第二六號

「商人」の解釈に関する國務省との非公式交渉開始について

サン・フランシスコ

7月8日後發

本 省 7月9日後着

第六四號

本官發在米大使宛電報

第二〇號

往電第一九號及閣下發大臣宛電報第三八一號ニ關シ本件「トレード」ノ解釋ニ關シテハ客年閣下發大臣宛電報第二六號及同年七月十六日附閣下發大臣宛機密公第三七三號公信ノ通國務省ト御交渉ノ次第アル處今般移民法第三條(六)ノ修正ハ前記機密第三七三號國務省トノ非公式式了解ト如何ナル關係トナルヤ又本件ハ日米通商條約ノ解釋ニ關聯シ客年帝國議會ノ問題トナリタル行懸モアリ今般ノ修正ハ當地方居留民ニ鮮カラサル衝動ヲ與ヘ現ニ問合セ來ルモノアルニ付何分ノ儀本官心得迄御回電ヲ請フ

ワシントン 7月8日後發
本 省 7月9日後着

第三八一號

一九二四年移民法第一條第六項被移民身分ニ關スル條項ヲ左ノ通り修正スル下院法案(第八七六六號)七月一日議會ヲ通過シ(七月四日法文送附濟)六日大統領ノ裁可ヲ了シタリ

外國人ニシテ通商航海條約ノ規定ニ從ヒ米國ト其ノ國籍所屬國トノ間ニ於テ専ラ商業(トレード)ヲ行フ爲米國ニ入國シタルモノ及其ノ同伴シ又ハ呼寄セノ妻及二十一才以下ノ未婚ノ子女

尙桑港發本使宛電報第一九號中ニアル「將來締結セラルル通商條約ニ基ク入國資格ノ制限ニ關スル但書」ハ上院ニ於テ削除セラレタリ

在北米(ホノルルヲ含ム)各領事へ轉電セリ

377 昭和7年7月8日

在サン・フランシスコ若杉總領事より
内田外務大臣宛(電報)

「商人」の解釈に関する國務省との了解と改訂

大臣へ轉電セリ

在北米(ホノルルヲ含ム)各領事へ暗送セリ

(付記)

ワシントン 昭和6年2月10日後發

本 省 昭和6年2月11日後着

第二六號

客年四月桑港巡廻控訴院カ熊野御堂事件ニ關スル判決ニ於テ日米條約上所謂商業ノ文字ヲ極メテ廣汎ナル意義ニ解シ國際商業ノミナラス國內商業ヲモ含ムモノトナシタル結果在米日本人ノ間ニ廣義ニ於ケル商人ノ妻呼寄ヲ可能ナラシムル様國務省ト交渉開始方ヲ希望スルノ聲高マルニ至リタルモ移民法修正運動トノ關係上當時本問題ニ付交渉ヲ試ムルコト不得策ナリト認メ其ノ含ミニテ適宜在留民指導方沿岸各領事ニ申進置キタル處(客年九月七日附武富通商局長宛拙信參照)過般來屢本使及關係各領事ヨリ報告致置キタル通り移民法修正運動ハ少クトモ本短期議會ニ於テハ諸般ノ關係上到底奏效ノ見込無キコト略々明瞭トナリタルニ付此ノ際條約承認問題ニ關シ國務省側ノ切實ナル考量ヲ求メ

差當り永年米國ニ居住シ地方的商業ニ從事シテ相當取引上乃至財産上ノ基礎ヲ作レル商人ニ對シ妻呼寄ヲ可能ナラシムル様致シ度キ考ヘニテ不取敢一月廿九日館員ヲシテ國務省係官トノ間ニ非公式交渉ヲ開始セシメタリ
本問題ハ或ハ議會等ニ於テ論議セラルヘキカト存シ右一應報告ス
在米各領事ヘ轉電セリ

378 昭和7年7月10日 在米國出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

移民の定義改訂後の「商人」の解釈に関する
國務省側見解について

ワシントン 7月10日後発
本省 7月10日後着

第三八二號
往電第三八一號ニ關シ

本件修正案ニ關シテハ國務省ニ對シ豫テ我方ニ於テハ日米條約ノ「トレード」ハ廣義ニ解釋スヘキモノナル事並ニ米國裁判所ニ於テモ我方ノ解釋ヲ裏書スル判決ヲ屢下シ居ル

379 昭和7年7月12日 内田外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

移民の定義改訂に関する法案成立経緯につき
報告方訓令

本省 7月12日後7時30分発

第一四三號

貴電第三八二號ニ關シ

貴信公第三九号ノ法案七八〇一号ヨリ今回ノ法案八七六六号トナリテ下院及上院ヲ通過スルニ至ルマデノ経緯、上院ニ於ケル修正ノ理由、其他参考トナルヘキ諸事項詳細電報アリ度シ

380 昭和7年7月12日 在サン・フランシスコ若杉総領事より
内田外務大臣宛(電報)

移民の定義改訂に関し関係者へ事情説明のは
非につき駐米大使へ問合せについて

サン・フランシスコ 7月12日後発
本省 7月13日前着

件 雑 十
第六六號

事ヲ指摘シ本修正案ハ條約抵觸ノ問題ヲ生ス可シトノ趣旨ヲ申入レ置キタルカ先方ニ於テハ條約上「トレード」ハ元來國際間ノ商業ヲ意味シ伊太利人等ニ最モ多數ノ例ヲ見ルカ如キ路傍ニ於ケル果實商人モ靴磨モ所謂「トレード」ニ從事スル者ナリトノ解釋ヲ是認セハ事實上移民制限不可能トナル可ク且議會ハ一九二四年當時ヨリ國際商業者ニ限リ入國ヲ認ムル趣旨ナリシニ顧ミ國務省ニ於テモ國際商人ニ限リ入國査證ヲ與フル事トシ領事ニ對シ一律訓令ヲ發シ居ル次第ナリ、而シテ右方針ハ一般的移民制限ノ見地ニ出テタルモノニテ敢テ日本人ヲ目標トスル次第ニ非スト陳辯シ居レリ、尙在米日本商人ノ家族呼寄ニ關スル客年國務省トノ非公式交渉ノ結果ニ關シ先方ノ意向ヲ質シタル處永年米國ニ在住スル日本人ノ家族呼寄ニ關シテハ可成便宜計ヒヲ爲シ度キ考ナル事、毫モ當時ト變ル處無ク從テ本件修正案ノ成立ニ拘ラス個々ノ問題ニ付テハ實際ノ事情ニ基キ篤ト考慮ヲ加フル事ト致度シト陳ヘ居レリ
在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)ヘ轉電セリ

本官發米宛電報
第二一號

大臣宛貴電第三八二號ニ關シ

今回ノ修正ハ立法的手段ヲ以テ「トレード」ニ關スル米國行政部從來ノ解釋ヲ一方的ニ確定シ司法上及行政上熊野御堂事件ノ判例ノ如キ廣義解釋ノ餘地無カラシムルモノナルヲ以テ前記貴電第三八二號末段國務省ノ好意的考慮ノ餘地モ單ニ國際的商業ノ範圍ニ關スル問題ノミニ局限セラレ實際的取扱ニ關スル客年大臣宛貴信機密第三七三號了解事項モ本件修正成立シタル今日ニ於テハ第一項ハ適用不可能トナリ二項及三項ハ本件トハ直接關係無ク又考慮ヲ加フルトスルモ果シテ如何ナル資格ノ査證ヲ賦與セラルル事トナルヤモ不明ニテ其ノ實益乏シキ様感セラルル處前記貴電第三八二號末段ノ次第モアルニ付本件ハ當地熊野御堂事件關係者中ニ主義上日米條約ノ蹂躪トシテ憤慨シ居ル向モ有ルヲ以テ必要ニ應ジ右國務省トノ了解事項及前記貴電末段ノ趣旨公表シ差支ヘ無キヤ回電ヲ請フ

外務大臣ニ轉電シ「ホノルル」ヲ含ム在米各領事ニ暗送セリ

381 昭和7年7月16日

在米出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

移民の定義改訂に関する法案成立経緯につき報告

ワシントン 7月16日後発
本省 7月17日前着

第三九一號

貴電第一四三號ニ關シ

(一)一月十九日公第三九號拙信送附ノ下院法案第七八〇一號ハ「デクスタイン」カ國務省ノ依頼ニ基キ提出シタルモノナル處其後同案ノ末尾ニ但書トシテ

「將來締結セラル可キ通商航海條約ニ依リ米國ニ入國セントスル外國人ニ對シテハ一九二四年七月一日以降締結セラレタル條約ニ依リ附與セラレタルヨリモ大ナル入國ノ權利ヲ附與セラルル事無シ」

ヲ附シタル新法案(下院法案第八七六號)ヲ二月二日下院(一語脱)ニ提出シタリ右法案ハ二月十二日下院移民委員會ヨリ報告セラレ六月十八日ニ至リ何等修正ヲ加フル事無ク下院ヲ通過シタルカ下院議員「ジェンキンス」ハ本法案ハ條約ニ基キ米國へ入國スル外國人ノ營ム商業ヲ當人ノ

タルカ上院通過ノ際再應其注意ヲ喚起シタル處先方ノ應酬振ハ往電第三八二號ノ通ニシテ且各國一樣ニ適用アリ何レノ國ニ對シテモ不公平ナルモノニ非サルヲ特ニ釋(明)シ居リタリ

(三)本修正案提出ノ動機及效果ニ關シ諸方面ヨリ得タル情報左ノ通

(イ)直接ノ動機ハ支那人商人ノ入國ヲ阻止セントスルニアリ米支條約ニ於テハ國內商人其家族及從者ノ入國可能ニシテ最近之ニ對シ查證ハ嚴重ニ取締リ居ルモ結局條約ノ廢棄又ハ立法手段ニ依リ明白ニ其入國ヲ阻止スルノ必要アリトハ數年來ノ當國ノ意見(一九二七年勞働長官通報百六十五頁)ナリシカ熊野御堂事件以來國內商人モ條約商人ナリトノ意見ヲ持出サルルニ至リ

件
十 雜
日本人關係ニ於テハ商人妻ノ入國問題ニ限ラレ居リ其數亦多カラサルモ條約上日本ト同様ノ地位ニ在ル伊國人等カ一時の滞在者トシテ入國ノ上路傍ニ「アプル」ヲ賣ルモ素ヨリ商人ナリトテ裁判手續ニ依リ永久滞在ヲ計ル者今後無數ニ生シ得ヘキヲ虞レタルコト助成原因ヲ爲シ尙條約商人ノ查證ハ國際商人ニ限り附與スヘキヲ訓令セル國務省ノ領事

本國及米國トノ間ニ限り米國ト第三國トノ間ニ濫ニ商業ヲ營ム事ヲ禁セントスルモノナリト述ヘタリ上院ニ於テハ既ニ客年二月十七日「コウブランド」ヨリ下院法案第七八〇一號ト同一ノ法案(上院法案第三六九八號)提出セラレ居リタルモ右ハ廢案トナリ下院通過ノ法案第八七六號ニ付審議ノ結果「リード」ヨリ法案中ノ from which he comes ナル辭句ヲ of which he is a national ト修正シ更ニ但書ハ上院ノ條約締結權限ヲ縮少スル虞アリトテ削除ヲ主張シ右ノ通修正六月二十四日上院ヲ通過シタリ「リード」ハ其ノ際本法案ノ目的ハ移民法ヲ引締メントスルモノニシテ即チ條約ニ依リ米國へ入國スル外國人ハ其本國ト米國トノ間ニ國際商業ヲ營マンカ爲ニ渡來スル者ナル事ヲ明確ニシ例ヘハ桑港ニ於テ支那人カ八百屋ヲ營マンカ爲入國セントスルヲ禁スルモノナリ更ニ斯ル外國人妻トシテ寫眞結婚又ハ代理結婚等ニ依ル者ノ入國ヲ禁セントスルモノナリト説明セリ右法案ハ兩院協議會ニ附セリ七月一日下院ハ右上院修正案ニ同意シタル爲直ニ大統領ノ手許ニ(送)附セラレ七月六日裁可ヲ了シタリ

(二)本修正案提出ヲ見タル當時一應國務省ノ考慮ヲ求メ置キ

執務規律ハ判決ニ顧ミ條約違反ナリトノ非難ヲ聞クニ及ヒ查證ニ關スル從來ノ方針ヲ法律化セント欲シタルコトモ國務省ノ決意ヲ促シタルカ如シ

(四)各國一般ニ適用アルニ相違ナキモ條約上商人ニ關シ漠然廣汎ナル規定ヲ有スルハ支那日本及伊國ナルヲ以テ本修正案ノ影響ヲ蒙ル者ハ事實上右三國ニ限ラル可ク尙今後改訂ノ條約ハ總テ今回ノ修正法ニ準據スル國務省ノ方針ト察セラル

(五)第三國トノ通商關係ニ依リ入國シ永久ノ身分ヲ獲得セルモノ歐洲各國民中相當アル模様ナルモ之等ハ將來一時の滞在者若ハ歩合移民トシテ入國スル外ナカル可シ

(六)國內商人タルモ國際商人トシテ妻ノ永久滞在ヲ許サレタル日本人ニ關シテハ妻カ米國ニ滞在スル限り問題發生セサルモ一旦出國ノ上歸米スル場合今回ノ修正ノ結果入國ヲ阻止セラルル虞ナキヲ研究ヲ要ス

貴電第一四三號ト共ニ桑港ニ轉電シ在米各領事及「ホノルル」へ暗送セリ

382 昭和7年7月16日 在米出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

移民の定義改訂に関する國務省との協議事情
の公表は差控えた旨サン・フランシスコ総
領事へ回答について

ワシントン 7月16日後発
本省 7月17日前着

第三九二號

本官發桑港宛電報

第一〇號

貴電第二一號ニ關シ

(一)條約論ヨリスレハ彼我意見ノ相違ハ移民法制定當時ヨリ
存續セル次第ニシテ米國側ニ於テハ狹義解釋ノ立場ヨリ
一步モ退キタルコト無キモ日本ハ「クオータ」ヲ有セサ
ル特殊ノ事情モアリ在米日本人商人ノ家族呼寄ニ關シテ
ハ査證上充分考量ヲ加フ可シト言フカ客年懇談ノ末先方
ノ表示セル意嚮ニシテ右意嚮ハ今回ノ修正案ノ成立ニ依
リ變ルコト無シト先方ニ於テ申居ル次第ナリ本件ハ要ス
ルニ手心ノ問題ナルヲ以テ客年了解ノ第一點ハ今回ノ法

383 昭和7年7月18日 在サン・フランシスコ若杉總領事より
内田外務大臣宛(電報)

移民法改訂案に対し当地商業會議所會頭より
大統領秘書宛請願書の送付について

サン・フランシスコ 7月18日後発
本省 7月19日後着

第七一號

本官發米宛電報

第二二號

往電第一九號ニ關シ

件 大統領裁可ノ事實ヲ知ラサリシ由ナル桑港商業會議所會頭
「カトラ」ハ十五日大統領竝ニ其秘書「リチー」宛電報
ヲ以テ左記要旨ノ請願ヲ爲セル趣ナリ尙當地支那人商業會
議所ヨリモ大統領宛請願電報ヲ發シタル由何等御參考迄
移民法修正案ハ巡回裁判所ノ無効トセル國務省ノ規則ヲ合
法化セントスル動機ニ出テタルモノト信スル處日米條約第
一條竝ニ熊野御堂事件ニ關スル判決ニ鑑ミ該法案ハ同條約
ヲ制限シ部分的ニ之ヲ無効ナラシムルモノナリト信ス熊野
御堂事件ハ上告セラレサリシヲ以テ同條約ニ關スル最終的

律ニ依リ無効トナリタル次第ニ非ス

(二)客年懇談ノ結果ヲ實行ニ移スカ爲ニハ右内容ヲ一般ニ周
知セシムル必要アリ其方法及實行上ノ順序範圍等ハ本使
賜暇歸朝ノ途上貴地ニ於テ沿岸領事ト篤ト打合せノ上再
應國務省ト談合ノ所存ナリシカ御承知ノ通滿洲事件ノ勃
發ニ依リ萬事見合せトナリ其儘今日ニ及ヒタル次第ナリ
(三)本件發表ハ各領事トモ協議ノ上再應國務省ト打合せヲ了
スル迄差控フルコトニ約束シアルニ付此際突然發表スル
コトハ面白カラス但シ客年懇談ノ事實及前記(一)ノ筋合ニ
テ關係者等ニ貴官ヨリ内話セラルルコトハ御差支無シ但
シ新聞紙上ニテ論議セシムルカ如キコト無キ様特ニ御配
慮願度シ

本省へ轉電在米領事(「ホノルル」ヲ含ム)へ暗送セリ

(欄外記入)

領事トノ協議、國務省トノ打合ハ此ノマ、トシ置キ差支無キ
ヤ

解釋ナリ就テハ國際友好關係増進ノ爲周到ナル調査ヲ遂ケ
ラレ該法案ヲ拒否セラレンコトヲ請願ス
大臣ニ轉電シ在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)ニ暗送セ
リ

384 昭和7年7月21日 在米出淵大使より
内田外務大臣宛

米國第七十二議會第一會期において採択され
た移民法および帰化法關係法律について

普通公第四〇四號 (8月20日接受)

昭和七年七月二十一日

在 米

特命全權大使 出淵 勝次〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

第七十二議會第一會期ニ於ケル移民法及歸化法關係法
律及法案概括報告ノ件

七月十六日閉會セル第七十二議會第一會期ニ於テ移民法及
歸化法關係法案ノ提出セラレタルモノ合併百二十一件中法
律トナリタルモノハ八件ニシテ他ハ來ル十二月開會セラル

ヘキ第二會期ニ持越サルルコトナリタリ
一、法律トナリタルモノ八件左ノ通

(一)法律第二三二號(下院法案第七七九三號)

外交官ノ從者及學生ニ對シ其身分終了ト共ニ出國ヲ要求セントスルモノ(五月二十七日附公第二八四號、六月二十七日附公第三五一號及七月十四日附公第三七二號參照)

(二)法律第六一號(下院法案第八二三五號)

外國人器樂師ニ契約勞働規定ヲ適用セントスルモノ(五月二十八日附公第二九二號參照)

(三)法律第二六六號(下院法案第八七六六號)

一九二四年移民法第三條第六項ヲ修正シテ條約上ノ商人ヲ國際商人ニ限定セントスルモノ(一月十九日附公第三九號往電第三九號、往電第三八一號、第三九一號、七月四日附公第三五七號七月十八日附公第三八八號參照)

(四)法律第二七七號(下院法案第一〇六〇〇號)

米國市民ノ夫ヲ非歩合移民トシテ入國ヲ許可セントスルモノ(四月二十日附公第二一六號、七月七日附公第

三六二號及七月十六日附公第三八七號參照)

(五)法律第二四八號(下院法案第一〇八二九號)

一九〇〇年以前布哇島ニ出生セル女子ニ歸化ヲ許サントスルモノ(四月十五日附公第二一五號及七月十六日附公第三八二號參照)

(六)法律第一一五號(下院法案第九五九八號)

移民法中契約勞働ニ關スル規定ノ勵行費ヲ年額十萬弗ヨリ二十萬弗ニ増額セントスルモノ(法文添付)

(七)法律第一四九號(下院法案第六四七七號)

世界大戰(一九一七年四月五日ヨリ一八年十一月十二日ニ至ル期間)ニ際シ米國軍隊ニ服役シ不名譽ノ廉ヲ以テ役務ヲ解除セラレタルモノニアラサル歸化可能外國人ニ大戰當時ト同一ノ條件ノ下ニ歸化ノ特權ヲ賦與セントスルモノ(法文添付)

(八)法律第一九八號(上院法案第四四二五號)

米領「バージン」諸島出生ノ者ニシテ國外ニ居住セル者ニ對シ米國ニ入國セントスル際之ニ非歩合移民ノ資格ヲ賦與セントスルモノ(法文添付)

二、其他移民法及歸化法關係法案ニシテ本期議會ニ於テ議

決ヲ見サリシモノノ中主ナルモノ左ノ通

(一)外國人船員追放ニ關スル法案(上院法案第七號及下院法案第一二一七三號)(客年十二月廿二日附公第五六四號、一月七日附公第九號、一月二十五日附公第四七號及七月十四日附公第三八六號參照)

(二)外國人共產黨員追放及排除ニ關スル法案(下院法案第一二〇四四號)(六月九日附公第三〇七號參照)

(三)米國市民ノ兩親ヲ非歩合移民トシテ入國ヲ許サントスル法案(下院法案第八一七四號)(六月二日附公第二九六號參照)

(四)移民歩合切下ニ關スル法案(下院法案第一〇六〇二號)(四月十三日附公第一八七號參照)

(五)移民法第十三條C項ヲ修正シテ「支那人」ノ語ヲ削除セントスル法案(下院法案第三〇四號、第二〇三號、第四六七五號及上院法案第二七六〇號)(客年十二月二十二日附公第五六四號及一月十四日附公第二一號參照)

(六)外國人ノ登録及之ニ身分證明書ヲ發給セントスル法案(下院法案第七四三六號)

三、尙旅券手数料ニ關シ左記法律ノ制定ヲ見タリ

本法案ハ米國內ニ居住スル外國人ハ總テ本法制定後三ヶ月以內ニ歸化局ニ又一時ハ永久ノ目的ヲ以テ米國ニ入ラントスル外國人ハ總テ入國港ニ於テ身分證明書發給方ヲ請求スヘキコト及歸化可能外國人ニシテ年齡二十一歳ニ達シタル者ハ國籍取得出願直前五年間本法案ニ依リ登録スヘキ旨ヲ規定セントスルモノナリ(法案添付)

(七)國籍ノ喪失、歸化權ニ關スル規定ヲ綜合統一セントスル法案(下院法案第五六號)(法案添付)

本法案ハ米國內ニ居住スル夫、妻、兩親、子女等ト同居ノ目的ヲ以テ入國許可ヲ請求スル外國人ニシテ其ノ米國內ニアル親戚カ當人ノ入國後五ヶ年以內ニ於テ公共ノ負擔トナラサルヘキコト(必要ノ場合ニハ一千弗ヲ超ヘサル「ボンド」ヲ積ムコト)ヲ保證スル場合ニハ公共ノ負擔トナル恐アルモノトハ思惟セラレサルヘキ旨ヲ規定セントスルモノナリ(法案添付)

三、尙旅券手数料ニ關シ左記法律ノ制定ヲ見タリ

法律第一三六號(下院法案第九三三號)

旅券發給手数料ヲ五弗ヨリ九弗ニ書替手数料ヲ二弗ヨリ五弗ニ増額シ書替回数ヲ二年ニ一回ト改メタルモノ
(五月二十七日附公第二八一號參照)

本信寫送付先 在米各領事(含ホノルル)

385 昭和7年7月29日 在米出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

移民法および滿州問題協議のためサン・フラ

ンシスコにおいて領事會議開催について

付記 九月二十八日武富通商局長と出淵大使會談

同會談要旨

ワシントン 7月29日後發
本省 7月30日前着

第四〇二號

往電第四〇一號御許可ノ上ハ移民法關係諸問題(昨年往電第一七六號參照)及滿洲問題等ニ關スル打合ノ爲桑港ニ於テ沿岸領事ト會合致度ニ付一兩日滞在ノ豫定ヲ以テ「シヤトル」、「ポートルランド」羅府各領事ニ桑港出張ヲ命セラレ

レタリ要スルニ桑港ニハ日米新聞社ノ熊野御堂事件以來ノ歴史アル外通過ノ代議士連ノ中例ヘハ中村嘉壽君ナトヨリ煽動セラレタル居留民ノ關係等加ハリ熱心ニ本件ヲヤカマシク云フ程度ナルヘシ

三、他方米國國務省ニテハ法律ハ法律、實際ノ取扱ハ取扱ト云フ立前ニテ實際問題ヲ處理シオール實情ニシテ現ニ一時入國者ヲ商人ノ資格ニ變更スルコトナトハ勞働省ヲ説キテ我邦人ノ利益ヲ計ル取扱ヲ爲シツツアリ國際商人國內商人ノ別モ要スルニ事實認定ノ問題ナルヲ以テ實際ノ取扱上ハ新法律出來タカラトテ從來ト何等差異ナキ筈ナリ第三國トノ取引ニ從事スル商人ハ入國出來ヌト云フ形式論モアランモ新聞記者ヲ國際商人ト認定スル取扱ヲ平氣テヤル米國ノコトナルヲ以テ今後ノ現實ノ取扱振ヲ注意シオリタラハヨカラシ

四、自分ハ右ノ如ク現實ニ希望者モ餘リナキ問題ヲ形式的ニヤカマシク國務省ト論議スルヨリモ現實ノ希望者アル場合個々ノ「ケース」トシテ其入國許可ヲ援助スルコト實際的處理方法ナリトシテ領事諸君ヲ説得シ其同意ヲ得タリ從テ昨年水澤書記官ト國務省係官トノ諒解事項ヲ公

度シ準備ノ都合アルニ付至急御承認ヲ請フ

(付記)

武富通商局長

一九三二年九月二十八日出淵大使來談ノ要旨左ノ通

一、歸朝ノ途次桑港ニ於テ沿岸各領事ト會合シ領事會議ヲ開催シタル處特ニ主管局長ニ報告スヘキ事項トシテハ例ノ國內商人國際商人ノ問題ヲ含ム在米者ノ妻子呼寄ノ件ノミナリ其他ハ主トシテ時局ニ件フ在米領事ノ心得ヲ自分ヨリ訓示シタルモノト承知シオカレタシ

二、在米者ノ妻子呼寄ノ件ハ先ツ自分ヨリ各領事ニ對シ現實ニ妻子呼寄ヲ希望シオレル在留者幾何アリヤヲ地方別ニ尋ネタルニ「シヤトル」「ポートルランド」ハ自分ノ豫想シタル如ク現實ニハナシトノ答辯アリ次テ「ロスアンゼルス」ハ自分ノ豫想ニ反シ現實ニハナカルヘシト答ヘタルヲ以テ結局妻子呼寄ノ件ヲ問題ニシオレルハ桑港ノミナルコト明トナリタルカ桑港トテモ最初ハ數百名アルヘシトノコトナリシモ問答ヲ重ネタル結果多少現實ノ希望者アルハ事實ナルモ其數ハ明ナラストノ實情ト認メラ

表シタシトノ桑港總領事ノ希望モ取消サシメオキタリ

五、今後議會等ニテ中村代議士其他ヨリ質問アラハ(一)沿岸方面ノ實情ハ調査ノ結果桑港ニハ多少ノ希望者アルモ他ニハ別段急迫シタル希望者モナキモノト認メラルルコト(二)條約ノ解釋ハ新シキ法律ニヨリテ左右セラルル筈ナキヲ以テ政府トシテハ我方ノ解釋ヲ主張シ米國政府ト交渉中ナルカ米國政府モ實際ノ取扱ハ出來ル丈寛大ナル處置ヲ採リツツアルコト等ヲ指摘シテ適宜應酬シオキ可然六、晚香坡ハ昭和三年ニ締結シタル婦人小兒ヲ加算スル百五十名制限協定ノ結果男子ノ入國モ妻呼寄モ將又加奈陀側ニモ内外トモ萬事圓滿ニ行キオレリトノ報告アリタルハ慶スヘキコトナリ

386 昭和7年7月29日 在サン・フランシスコ若杉總領事より
内田外務大臣宛(電報)

法案成立が國際友好關係に影響を与えるもの
とは考えないとの大統領秘書の談話について

サン・フランシスコ 7月29日後發
本省 7月30日前着

第一五號

本官發米宛電報

第二三號

往電第二二號ニ關シ

當地商業會議所會頭ト懇意ノ間柄ナル大統領秘書「リツチ
ー」ヨリ右商業會議所ノ抗議ニ對スル勞働省側ノ回答寫ヲ
送付シ來リタル所ニ依レハ同修正法ノ拒否ハ大統領裁可後
ノ今日問題トナラサルモ該法案ハ國務省ノ「スポンサー」
セル處ニシテ勞働省之ニ同意セルモノナルカ本法ハ裁判所
ノ解釋ニ依リ日支兩國民力他國民ニ比シ優越地位ニ立ツノ
矛盾ヲ除去セントスルモノナルヲ以テ純然タル地方的事業
ニ從事セントスル日本人ノ入國拒絶カ國際友好關係ニ影響
ヲ與フルモノトハ思考スルヲ得サル旨ヲ述ヘ居レリ委細郵
報何等御參考迄
大臣ヘ轉電セリ
「ホノルル」ヲ含ム全米各領事ヘ郵報セリ

387 昭和7年7月29日

在サン・フランシスコ若杉總領事より
内田外務大臣宛

ニ關スル件

一九二四年移民法第三條(六)ヲ修正セル下院法案第八七六六
號ノ議會通過ヲ聞知セル桑港商業會議所會頭カトラー氏ハ
同法案拒否方ニ關シ大統領及大統領秘書リツチー宛別紙
甲號及乙號^(省略)ノ通り請願シ置キタル次第ハ本月中旬電報ヲ以
テ報告ノ通りナル處今般右大統領秘書ヨリ別紙丙號^(省略)ノ通勞
働長官ヨリ説明アリタル旨回答シ越タル趣カトラー氏ヨリ
内報アリタリ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送附先

外務大臣、在米各總領事及領事(ホノルルヲ含ム)

388 昭和7年9月13日

在サン・フランシスコ若杉總領事より
内田外務大臣宛

移民法修正に關する當地日本人会より大統領
宛陳情電報および國務次官よりの回答文書の
送付について

機密第三〇八號

昭和七年九月十三日

(10月12日接受)

法案成立に關し當地商業會議所會頭より大統領
および同秘書に對する請願書の送付について

機密第二六二號

(8月25日接受)

昭和七年七月二十九日

在桑港

總領事 若杉 要〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和七年七月二十九日附本官發在米大使宛機密第七五
號信寫送附

一、移民法第三條(六)修正ニ關シ桑港商業會議所ヨリノ請
願ニ關スル件

機密第七五號

昭和七年七月二十九日

在桑港

總領事 若杉 要

在米

特命全權大使 出淵 勝次殿

移民法第三條(六)修正ニ關シ桑港商業會議所ヨリノ請願

(欄外記入)

在桑港

總領事 若杉 要〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和七年九月十三日附本官發在米大使機密第八八號信
寫送附

一、移民法第三條(六)修正ニ關スル在米日會及國務次
官ノ往復文書寫送付ノ件

機密第八八號

昭和七年九月十三日

在桑港

總領事 若杉 要

在米

臨時代理大使 加藤 外松殿

移民法第三條(六)修正ニ關スル在米日會及國務次官ノ往
復文書寫送付ノ件

一九二四年移民法第三條(六)ノ修正ニ關シ桑港米人商業會議
所ヨリ大統領宛請願シタル次第並之ニ對シ大統領秘書ヨリ
勞働長官ノ意見ヲ回附シ來レルニ就テハ本年七月二十九日

附機密第七五號ヲ以テ報告致置タル處今般本件ニ關シ七月

十四日當地在米日本人會ヨリ大統領ニ宛タル陳情電報並ニ
之ニ對スル八月二十五日附キヤツスル國務次官ヨリノ回答
文寫ヲ入手シタルニ付右何等御參考迄送付ス

追テ本件在米日會ヨリノ陳情ハ邦人移民入國周旋ヲ業トス
ル米人カ在米日本人會ヲ動カシ其名義ニ於テ電報シタルモ
ノニシテ當館ノ關知セサル處ナルカ之等米人辯護士等ハ自
己^己ノ營利上ノ見地ヨリ大使館及領事館ヲ通シテ客年七月十
六日附機密公第三七三號大臣宛貴信中ノ國務省トノ了解事
項ノ適用ニ依リ各場合ニ應シテ條約商人妻子ノ入國許可ヲ
取付クルカ如キ實際的解決ヲ圖ルニ於テハ自己^己取扱ノ事件
皆無トナルヲ以テ之ヲ喜ハサルモノニ有之飽ク迄モ今回ノ
修正カ日米條約違反ナルコトヲ指摘シ適當ノ事件ニ依リ之
カ試訴ヲ提起スヘク目下考慮中ノ趣ナリ

本信寫送付先 外務大臣、在米各領事（ホノルルヲ

含ム）

（別紙）

DEPARTMENT OF STATE

WASHINGTON

August 25, 1932.

JAPANESE ASSOCIATION OF AMERICA
SAN FRANCISCO CALIFORNIA

Sirs :

Reference is made to the telegram addressed to the
President by your association under date of July 14th,
1932, concerning the bill H. R. 8766, "To amend the sixth
exception in section 3 of the Immigration Act of 1924
with reference to nonimmigrant status of certain alien."

The bill referred to was passed by the House of
Representatives and the Senate of the United States and
was approved by the President on July 6 1932.

Under the provisions of the Act (Public No. 266
72nd Congress section 3 (6) of the Immigration Act of
1924 has been amended as follows :

" (6) An alien entitled to enter the United States
solely to carry on trade between the United States and
foreign state of which he is a national under and in

pursuance of the provisions of a treaty of commerce and
navigation, and his wife, and his unmarried children
under twenty-one years of age, if accompanying or
following to join him."

It is understood that the purpose of the amendment
was to clarify the section of the Act and in particular to
make clear the intent of Congress that an alien coming
to the United States solely to carry on trade between the
United States and the foreign state of which he is a
national should be accorded non-immigrant status, and
also to include specific provision to cover the wives and
unmarried minor children of such treaty aliens.

In regard to the entry of Japanese as treaty aliens
under the provisions of treaty of commerce and naviga-
tion between the United States and Japan, signed Febru-
ary 21, 1911, it may be stated that this treaty, which
states in its preamble that it was intended by the two
governments to prescribe rules "to govern the commer-
cial intercourse between their respective countries," has

been considered by the Department to confer upon
subjects of Japan right of entry under section 3 (6) of
the Immigration Act of 1924 for the purpose of carrying
on substantial trade between Japan and the United
States. It is not believed that the decisions of the courts
in cases involving the interpretation of the treaty provi-
sion referred to were altogether consistent or that they
were of such a nature as to require any change in the
Department's construction regarding the rights of entry
of Japanese into this country under section 2 of the Act
of 1924, for the purposes of trade, that is that it relates
only to entry for purposes of carrying on trade between
the United States and Japan. This construction, which is
consistent with that followed in the case of treaty aliens
coming to the United States from other countries under
treaties of commerce and navigation, has not been
changed by the amendment of section 3 of the Act of
1924 by the Act of July 6, 1932.

Very truly yours,

W. D. CASTL, Acting Secretary of States

July 14, 1932

President of the United States
Washington, D. C.

Your attention respectfully called to House of Representatives Bill 8766 which we understand has been or will be submitted to you for approval Stop This Bill amends 1924 Immigration Act so as to limit the admission of traders to those engaged in international trade Stop We believe this amendments greatly restricts and therefore partially nullifies commercial treaty between the United States and Japan Stop Our opinion based on wording of Article one of Treaty and interpretation by Judge Wilbur of Ninth Circuit Court in Kumanomido decided April 7, 1930 Stop This decision expressly states that a trader is not confined by immigration law or treaty to one engaged in foreign trade Stop Case not appealed to Supreme Court and therefore is final ruling on this

treaty interpretation Stop We believe amendment violates treaty rights of Japanese and other nationals and will cause resentment with resulting harmful effect on trade and friendly relations between the United States and foreign countries Stop Amendment will have very minor effect on Japanese immigration and main purpose seems to be to legalize State Department regulation nullified by Circuit Court but never abandoned Stop We respectfully ask your careful consideration and investigation as to violation of treaty rights and sincerely hope that Bill will be refused your approval

Japanese Association of America

T. Takimoto

(欄外記入)

修正カ条約違反ナラズトノ從來ノ見解ヲ述ヘタルモノ

389 昭和7年10月17日

在サン・フランシスコ若杉総領事より
内田外務大臣宛

移民法修正後の非移民資格變更に関する米國

労働省の取扱ひ振りについで

機密第三五八號

(12月3日接受)

昭和七年十月十七日

在桑港

總領事 若杉 要〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

非移民資格變更ニ關スル労働省ノ取扱振報告ノ件

(欄外記入)
一九二四年米國移民法第三條(六)規定ノ條約商人ノ意義及其入國權ニ關シテハ昭和五年四月熊野御堂靜子入國訴訟判決

後鈴木(昭和六年一月七日附大臣宛往信第一〇號)及南地(昭和六年二月十六日附在ロス、アンゼルス領事發大臣宛往信公第三七號)ノ入國訴訟等相續イテ邦人商人ニ有利ナル判決アリタルモ該移民法第三條(二)ニヨル非移民一時訪米者カ滯米中同法第三條(六)ノ非移民條約商人ニ資格變更シ得ルヤ否ヤニ就テハ未タ適確ナル判例ナク希臘人メタキシスノ資格變更ニ關スル巡廻裁判所ノ判例(昭和五年七月三十一日附大臣宛往信第三〇六號)ハ現行移民法施行前ノ一時入國者ノ資格變更ニ關スルモノナルヲ以テ直ニ之ヲ現行移

民法ニ依ル一時入國者ノ場合ニ適用シ得ス僅ニ一九三一年支那人一時入國者ダン、フー(Dang Foo)ノボンド返還訴訟(支那人排斥法規定ノ證明書ニ依リ渡航シ第九巡廻裁判所ノ判決ニ依リ無期限滞在ヲ許可セラレタル者後ニ到リボンドヲ積ミタルカ條約商人ニ身分變更ノ故ヲ以テボンド返還ヲ求メ第二巡廻裁判所ニ於テ勝訴トナル)ニ於テ一時入國者ヨリ條約商人ニ資格變更ヲ認メタル判例アルモ之トテ無期限滞在者ノ資格變更ニシテ之ヲ其儘本邦人一時入國非移民カ入國後ニ於テ條約商人非移民ニ資格變更セントスル場合ニ適用セラルルヤ疑問トセラレタリ

然ルニ米國労働省ニ於テハ前記熊野御堂訴訟事件以後本邦人一時入國非移民ノ條約商人非移民ニ資格變更方出願ニ對シテハ之ヲ許可シタル例數件ニ上リタルカ最近ニ於テハ種々難癖ヲ付ケ可成之ヲ阻止セントスル傾向アリ國際商人ノ資格歴然タル兵頭直明(客月十九日附在晚香坡蜂谷領事發大臣宛公第二四六號往信)ノ如キニモ一旦出國ノ上條約商人非移民査證ヲ求メシメタル事例アルニ付本件ニ關スル労働省ノ方針ヲ調査セル處本年四月別紙寫^(省)ノ在羅府管内居住小川文子ノ資格變更不許可決定以來一時入國非移民ハ入

國當時ニ於テ條約商人非移民ノ資格ヲ有セル者ニ非ル限り資格變更ヲ許可セサルコトナシ居レリ

即右小川文子ノ資格變更不許可決定書ニ明示セラレ居ル本件ニ關スル勞働省ノ見解左ノ如シ

『熊野御堂、南地、鈴木等ニ關スル判例ハ入國當時條約商人資格ヲ有スル者ノ入國權ヲ認メタルニ過キサルヲ以テ之ニ依リ直ニ入國當時商人タラサリシ一時入國非移民カ入國後ニ於テ商人タル身分ヲ獲得シタル廉ニ依リ條約商人非移民ニ資格ヲ變更シ得ルモノト爲スヲ得ス^(ニミチアツセ)米國議會ハ移民制限ニ關スル嚴格方針ノ下ニ一九二四年移民法ヲ制定シタルヲ以テ同法ノ各條項ハ嚴ニ外國人ニトリ不利ナル様解釋スヘシ若シ條約カ爾後ノ國內法ト抵觸スル場合ハ國內法ノ效力ヲ認ムヘキコト大審院ノ判例ノ認ムル處ナリ移民法第三條^(ニ)ハ用務觀光等ノ爲一時入國ノ非移民ヲ入國セシムルモ同法第十五條ニ於テ此種一時訪米者ノ滞在期間ヲ限定セリ即一時入國者ハ特定ノ期間附滞在ノ爲入國ヲ許可セラレタルモノナルヲ以テ期間後尙滞在シ無期限滞在ノ權利ヲ主張セハ一時訪米者トシテノ非移民資格ヲ喪失スルモノト云ハサルヘカラス若シ一定

ニ轉セル場合ニ於テモ爾後滞在ヲ許ササル可カラス通過旅行者ニ就キテモ同様ナリ然ラハ一九二四年ノ制限の法律ハ幾多ノ回避手段ヲ有スルモノト云ハサル可カラス條約商人ノ身分ヲ有スル者ハ即時無期限滞在ノ入國ヲ許サルヲ以テ資格變更者ニ再入國ノ手續ヲ採ラシムルハ徒ラニ不便ヲ與ヘテ不都合ナリトノ議論アラシムルハ居住權ヲ入國當時ノ資格ニ依ラシムル根本方針ヲ屈クルヲ得ス

ダン、フー訴訟事件ニ於ケル第二區巡迴裁判所ノ判決文中「非移民ハ移民歩合ヲ定ムルヲ目的トセル一九二四年移民法ノ目的外ニアリテ非移民間ノ資格變更ヲ妨クルモノニ非ス」トノ意見ニハ贊同スルヲ得ス

勞働省ハ從來右ト反對ノ取扱ヲ爲シタルモ近來此種出願激増セルニ依リ熟慮考究ノ末之ヲ不許可トスルコソ正當

期間内ニ出國ヲ要求スル第十四條及第十五條カ日米條約ニ抵觸スルトセハ觀光用務ノ爲ノ旅行者ノ滞在期限ヲ附シタル點ナリ

移民法第三條^(六)ハ條約商人非移民カ現行條約ノ下ニ入國スルコトヲ許可シ居レリ而シテ其滞在ハ資格存續スル限り無期限ナルカ同項ノ規定ハ入國當時ニ於テ商人タリシコトヲ要求スルモノナリ然ラサレハ同項ノ entitled to enter ナル字句ハ無意義トナルヘシ同項カ日米條約ト抵觸スルトセハ夫ハ入國當時ニ於テ資格保有ヲ要求スル點ナリ條約商人ノ妻子ノ資格モ亦同様入國當時ヲ以テ定ムヘシ

又同法第三條ニハ非移民間ノ資格變更ヲ許ス明文ナキヲ以テ外國人ハ變更ノ權利ヲ主張スルヲ得ス

抑々議會ハ各種非移民ニ對シ夫々滞在期間ヲ明示セルヲ以テ特定期限ヲ附シテ入國セシメタル者ノ滞在ヲ資格變更ニ依リ無限ニ延長シ移民制限ヲ旨トスル議會ノ目的ヲ行政部ノ一機關ニ依ツテ變更スルコトヲ許スモノト思考スルヲ得ス若シ資格變更可能ナリトセハ日本人海員カ船舶乗組換ノ爲ニ許サルル六十日間ノ滞在期間中ニ輸入商

ナルノミナラス適法ナリト思考スルニ到レリ

當地移民事項取扱辯護士等ニ於テハ右勞働省ノ見解ハ前顯ダン、フー訴訟判決ニモ鑑ミ頗^(奇)怪ナリトナシ孰レ適當ノ依頼者アラハ訴訟ヲ起サント目論見居レリ(本件ハ主トシテ移民法ノ解釋問題ナルヲ以テ辯護士ニ於テハ目下ノ處外交渉ニ賴リテ之カ解決ヲ圖ル意思ナシ)本件ハ本年六月二十一日附通三機密第七五號閣下發在米大使宛公信未段ノ次第トモ關係アルニ付御參考迄此段報告ス

本信寫送附先 在米大使、在米各總領事及領事(ホノルルヲ含ム) 在晚香坡領事

(欄外記入)

資格變更ニ關スルレジュメハ本年度議會調書ニ挿入ノ筈ナリ

~~~~~